



令和6年度

雨竜川の多自然川づくり

～多様な場の保全・創出に向けて～

旭川建設管理部事業課 技師 大高広勢

河川改修着手の経緯

2014年（平成26年）8月洪水 約260ha浸水

2020年（令和2年）11月洪水 約90ha浸水



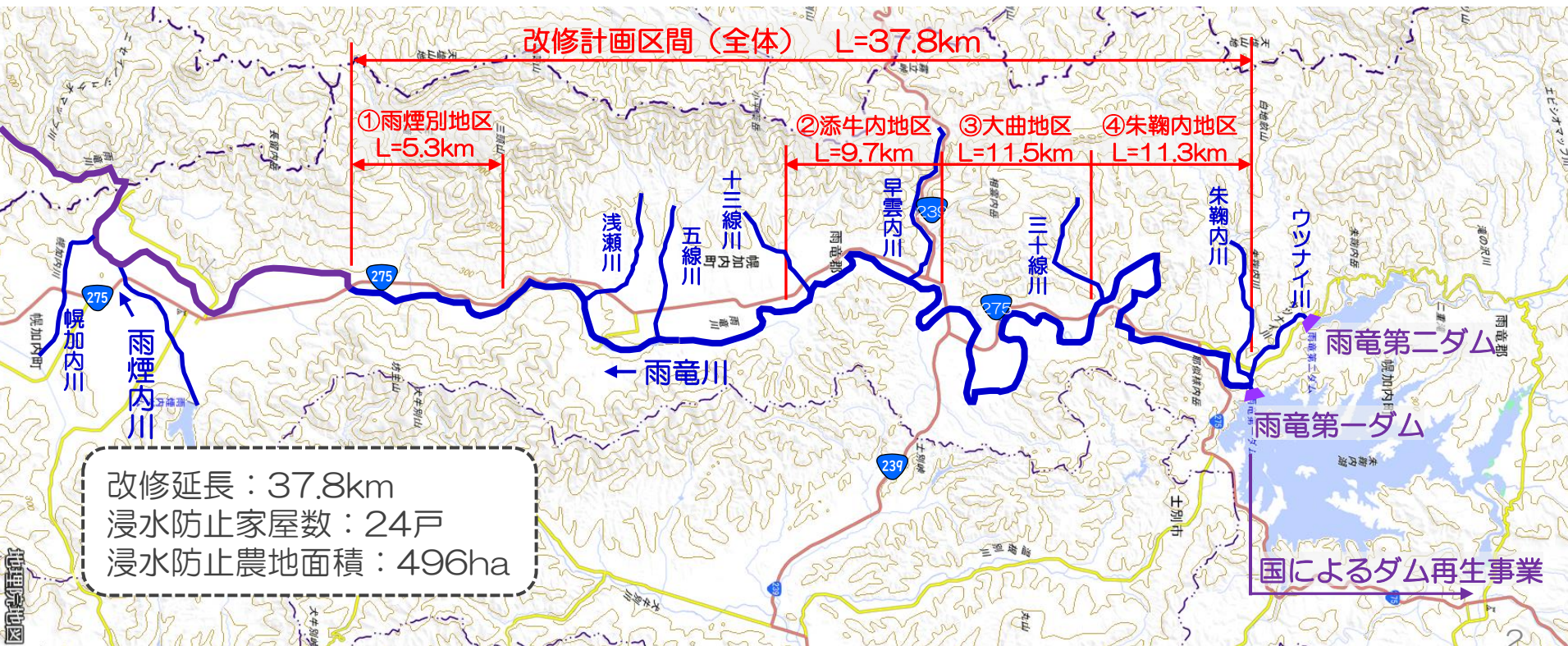
2023年度（令和5年）

河川改修に着手

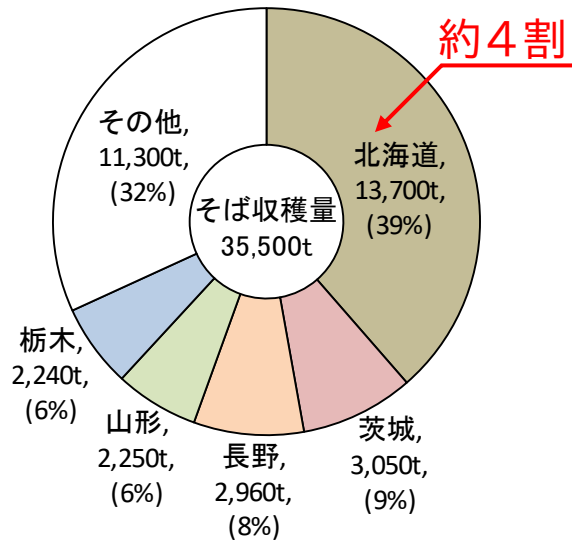


※2023年（令和5年）8月洪水 約230ha

2024年（令和6年）8月洪水 約160ha

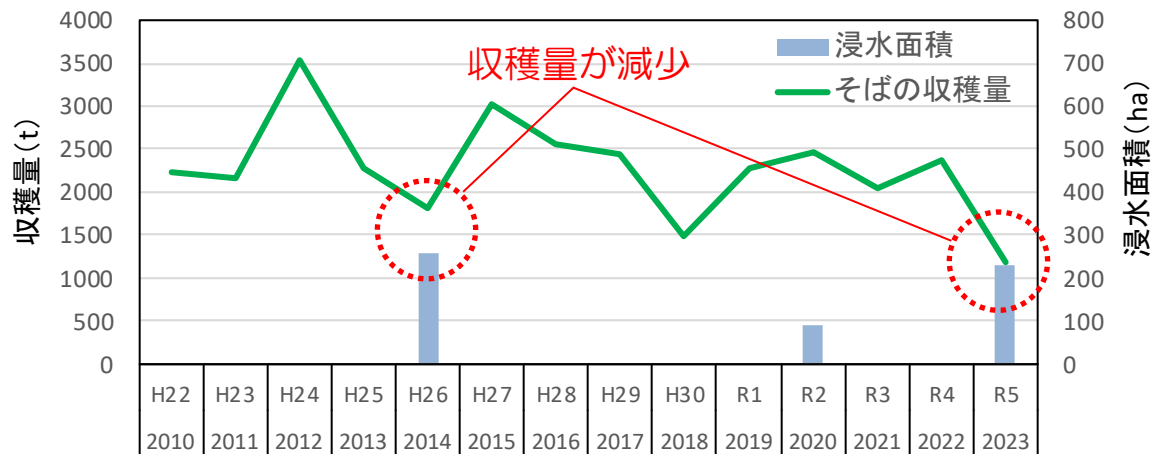


そばの収穫日本一の幌加内町



約4割

- 幌加内のそばは、全国のプライスリーダー
- 作付面積、収穫量は全国1位
- 約5万人が訪れる「幌加内町新そば祭り」は、
国道が渋滞する大人気



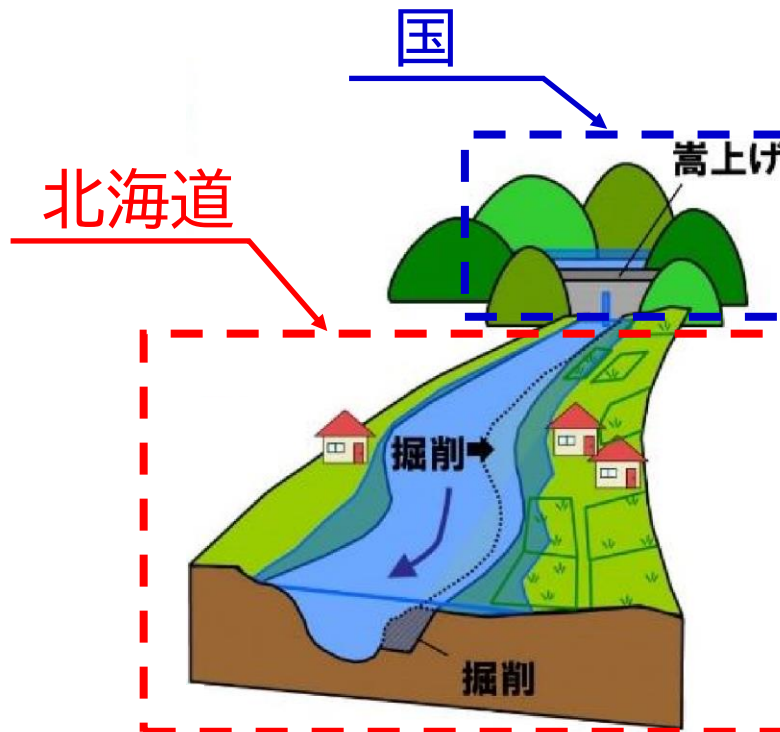
地域と日本の文化を守る雨竜川の整備

国と連携して行う雨竜川の整備

連 携

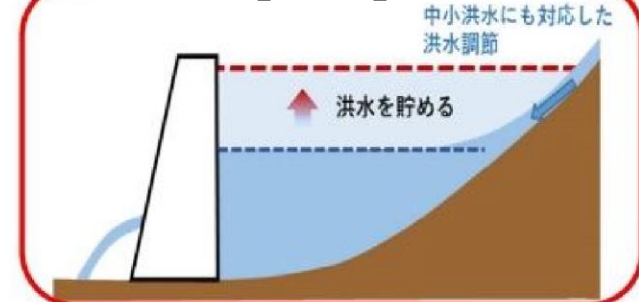
国：ダム再生事業

北海道：河川改修事業



現在、ダム整備に
合わせて暫定整備中
($Q=150\text{m}^3/\text{s}$)

【ダム】



下流河川の流下能力の向上に合わせた
ダムの操作方法を検討し、
近年のH28.8、H30.7、R2.11洪水にも対応



【河道整備】



市街地近傍や流下能力不足箇所の整備

雨竜川の環境（１）

- ・ 沿川は土地利用され、ほとんど湿地は見られなくなった
- ・ 川は昔と変わらず蛇行が多い

明治31年

湿地面積は
合計56ha

湿地

現在

地形図上に
湿地はない

畑地

雨竜川の環境（2）

現在の雨竜川に比較的多い環境

森林性鳥類など
（クマゲラなどのキツツキ類）
哺乳類（エゾクロテンなど）

ハンノキ、ヤチダモなど
（ヤナギ類より乾いたところ
に生育する）

ヤナギ類
（水面をカバーレイトウなどの
魚類が生息）

落葉広葉樹林

林床の草本
（カタクリ等）

本川

陸域

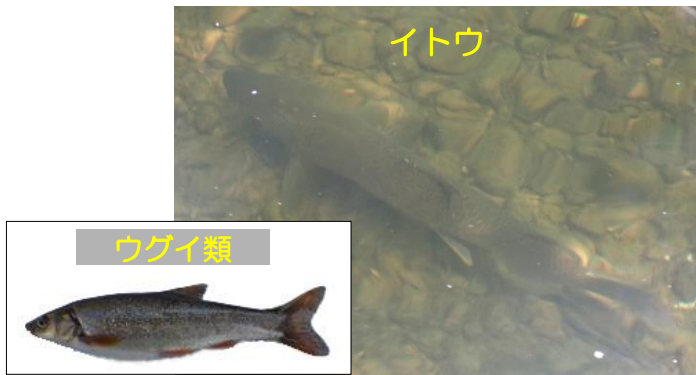
水域



森林性鳥類（キツツキ類）



カタクリ



本川の主な生息魚類



河道内への倒流木供給



落葉広葉樹林の風景

幻の魚 “イトウ”

寿命は15～20年

小魚・水生昆虫・
カエルなどを食べる

日本最大の淡水魚
(2m超えの報告も)

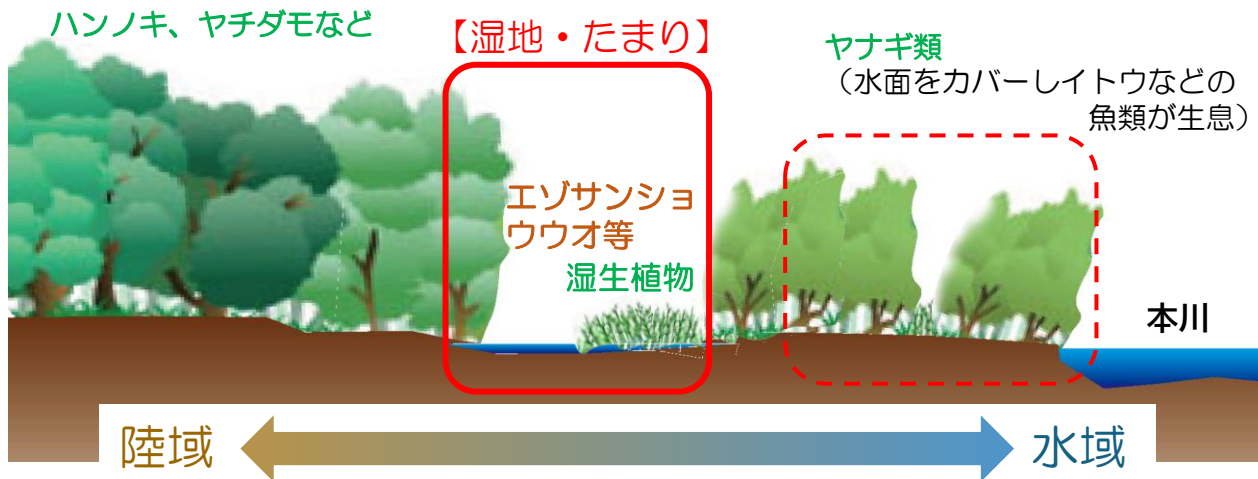
現在、日本では北海
道の一部にのみ生息
※雨竜川改修区間は全域で確認

撮影：大高広勢



雨竜川の環境（3）

わずかに残る湿地環境



湿生植物（ミクリ）



湿地・たまり



エゾサンショウウオ(卵囊) 8



エゾアカガエル



トンボ類

雨竜川の生態ピラミッド

大型魚類（イトウ）など

小型魚類、両生類など

水生・陸生昆虫など

【生物を支える場】

蛇行（瀬・淵）、水際、
河畔林、湿地



掘削の工夫により
保全・創出



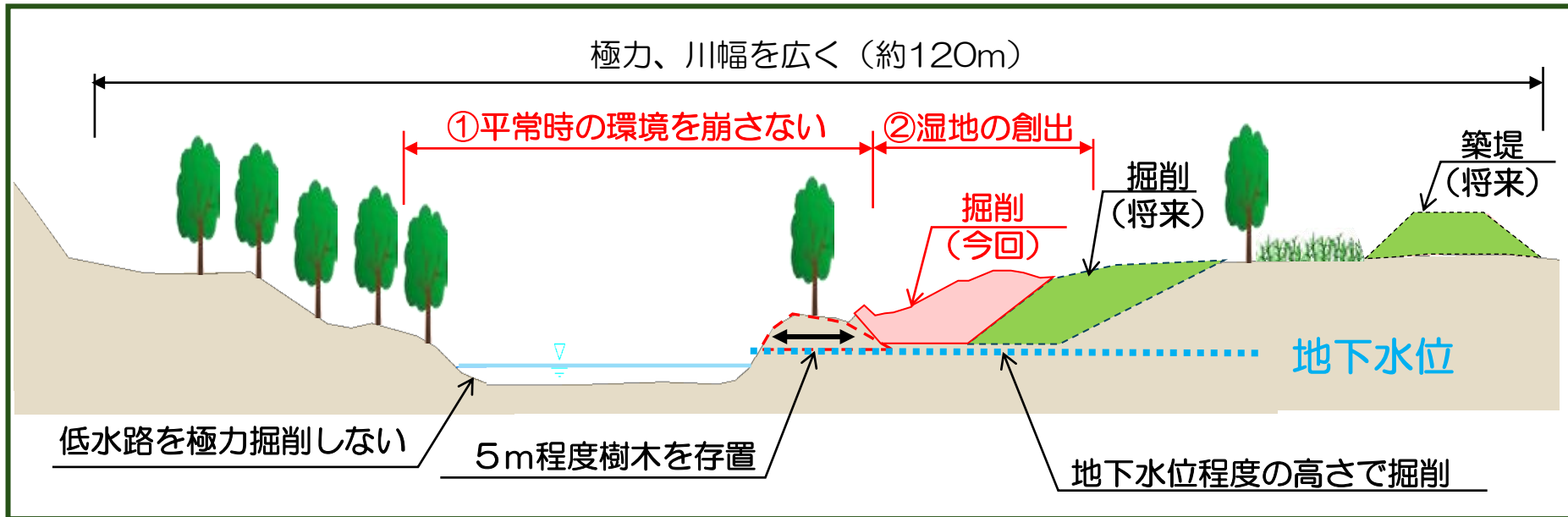
湿地等の保全・創出

①平常時の環境を崩さない → 魚類（イトウ等）への配慮

- 水際の樹木や河岸を極力保全

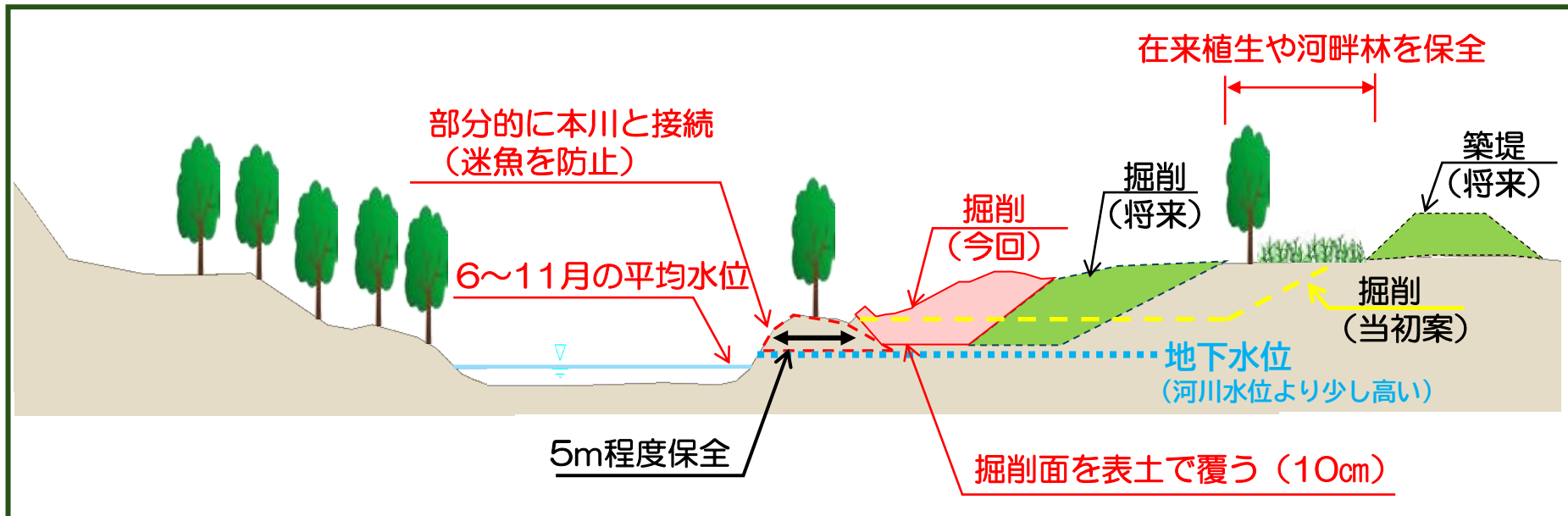
②湿地の創出 → 両生類、湿生植物への配慮

- 河道掘削高は地下水位程度
- 掘削面を表土で覆うことで早期植生回復・湿性植物の創出を図る。



掘削断面の考え方

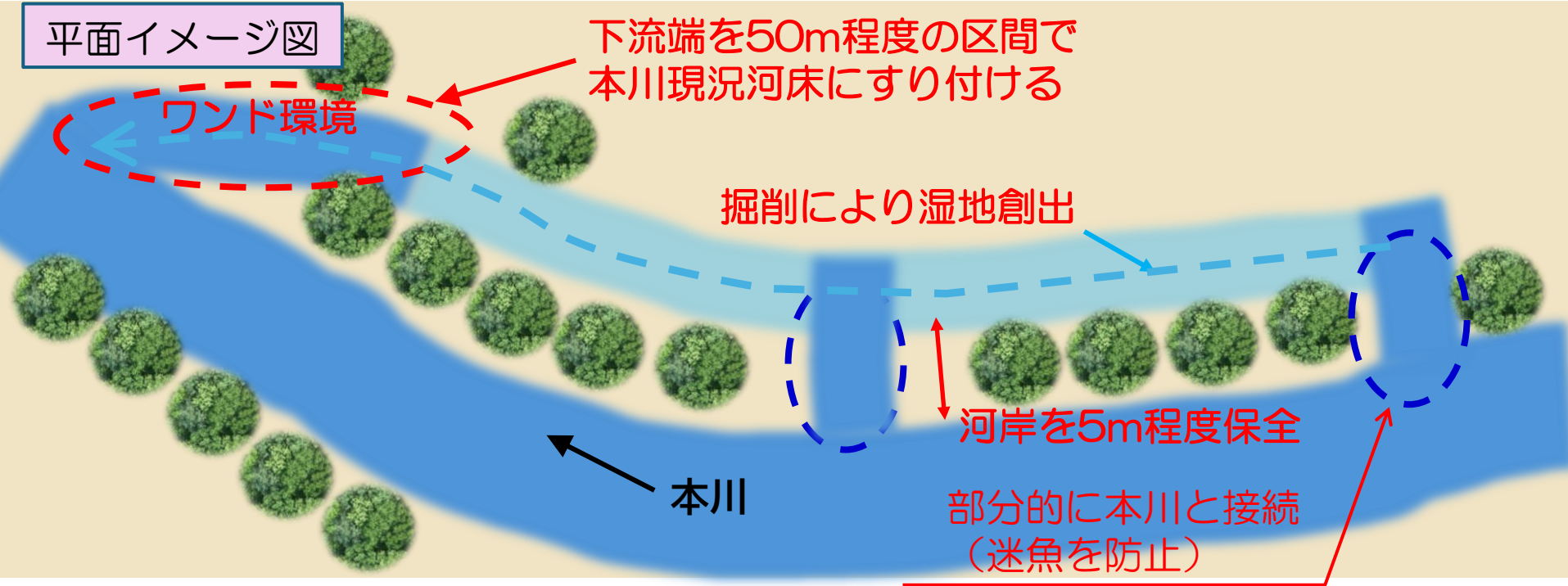
- 適度な出水と地下水を活用して湿潤を目指す
- 試掘結果、地下水位≒河川水位+0.2m
- 融雪期を除き、6～11月の平均流量である $10\text{m}^3/\text{s}$ を河川水位に設定
- 掘削面をシードバンクとなる表土で『+0.1m』覆い、早期植生回復と湿性植物の創出を期待



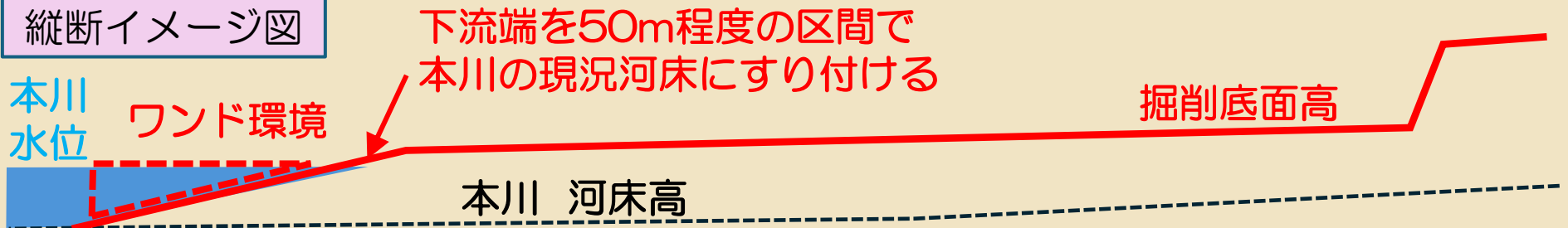
ワンドの創出

- 湿地掘削の下流端を50m程度の区間で本川現況河床にすり付け、**ワンド環境を創出**する
- 部分的に本川と接続して迷魚を防止する

平面イメージ図



縦断イメージ図



令和6年度 施工状況

【湿地づくり】

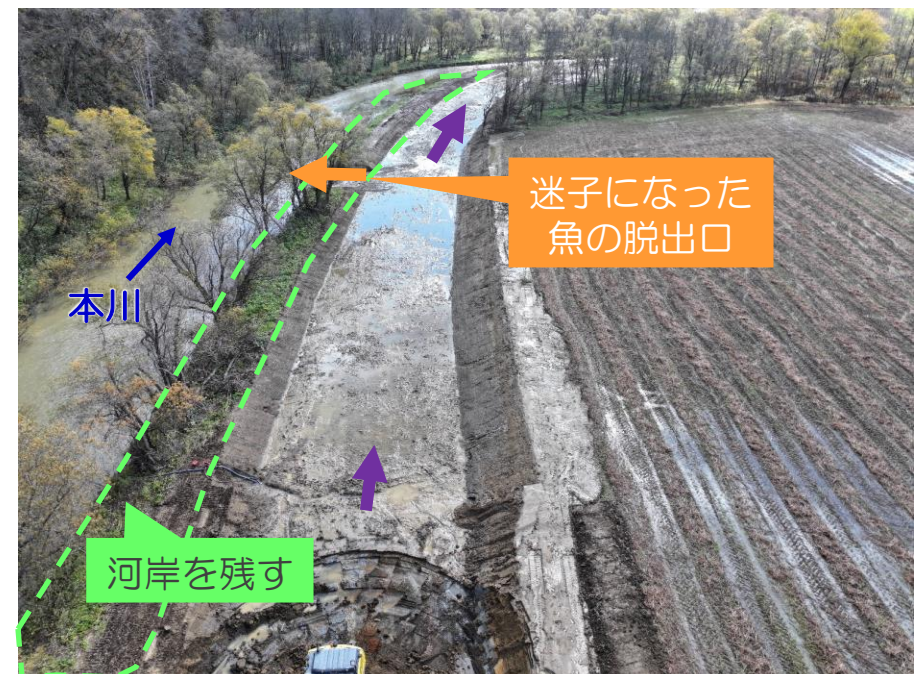
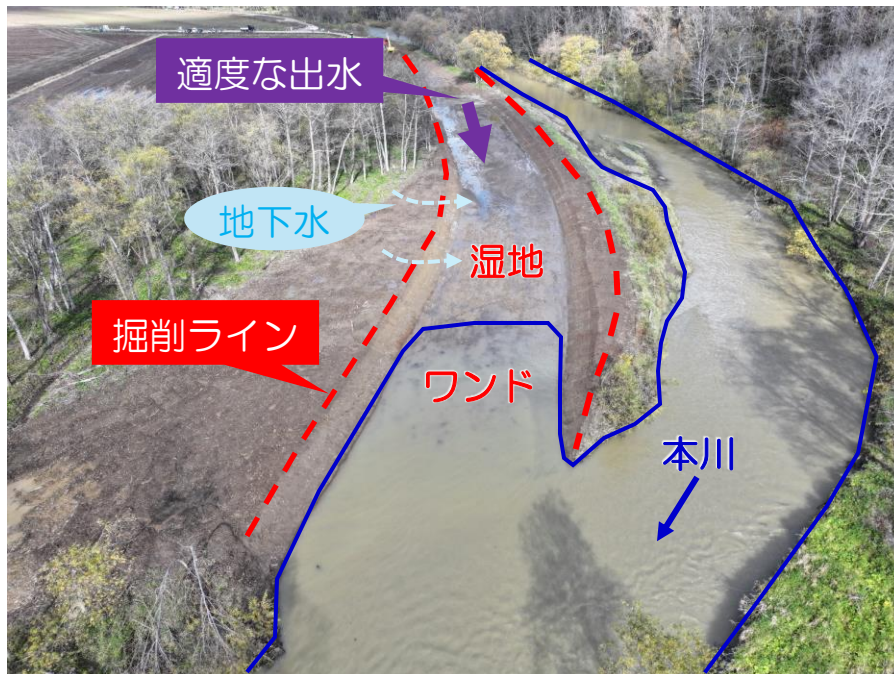
地下水位程度の掘削高とし、掘削面を表土で覆う

【ワンド】

掘削部下流端を50m程度で本川河床に摺付け

【本川との接続部】

部分的に本川と接続して迷魚を防止



モニタリング

【保全・創出内容】

湿地の創出（低い掘削基面高 ＋ 掘削面を表土で覆う）

→ 湿生植物・両生類のための湿潤な環境を創出

【モニタリング項目】

①水文調査（R7年度～）

→地下水位調査、掘削面の湿潤状況調査

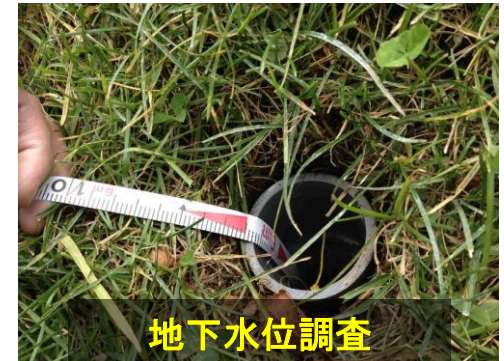
②植物調査（R6年度～）

→空中写真撮影（植生回復状況確認）

→植生横断調査、群落組成調査

③両生类等調査（R7年度～）

→産卵状況調査、水生生物捕獲調査



関係者と共有・連携

●現地意見交換会

現地にて、有識者、幌加内町、朱鞠内漁協、北海道開発局と共に現地意見交換会を実施。



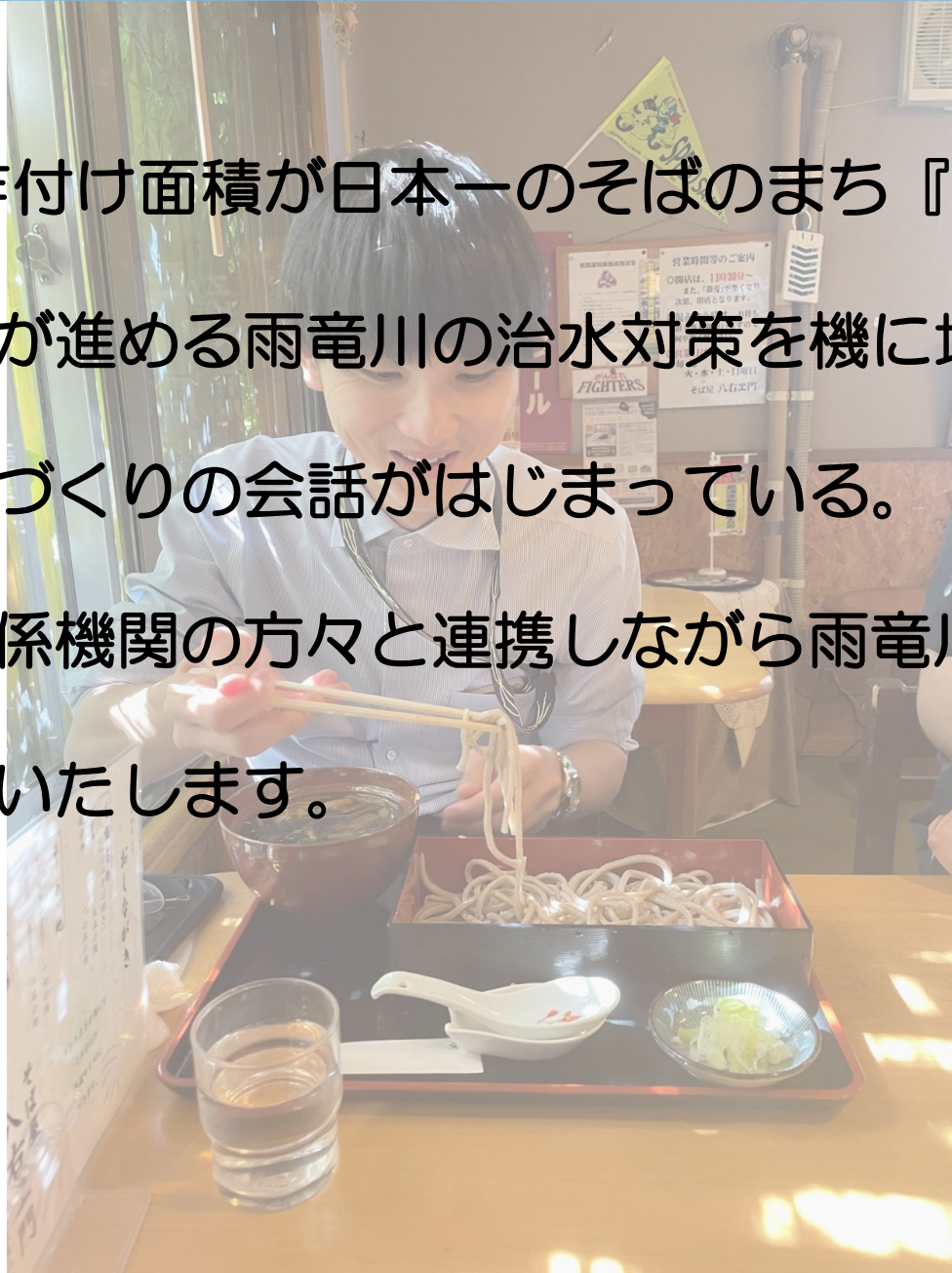
令和6年10月開催



おわりに

そばの作付け面積が日本一のそばのまち『幌加内町』で、
国と北海道が進める雨竜川の治水対策を機に地元や学識者
などと地域づくりの会話がはじまっている。

今後とも関係機関の方々と連携しながら雨竜川の河川改修
工事を推進いたします。



主な関係者

(調査設計関係者)

株式会社 ドーコン

株式会社 北海道技術コンサルタント

和光技研 株式会社

(地域の関係団体)

国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部

幌加内町役場